

(1) 2024年(令和6年)8月21日(水曜日)

## 埋設物への接近、AR画像や音で警報



ARによる自機のバケットと地下埋設物のCIモデルを見ながら安全に作業できる

## 岩田地崎とネクステラスが開発

### 3次元CIモデルを使用 公衆災害防止へ

岩田地崎建設(本社・札幌)は20日、重機の操縦室に取り付けたモニターを通して、3次元CIモデルで地下埋設物を可視化できる「AR(拡張

現店に7月から機器のレンタルを始めた。

中の配管などをCI

モデル化し、タブレット端末「iPad Pro」に読み込ませ、AR

の自機バケットと同じ画面上に表示させる。近づき過ぎると警告音を発し

も有効だ。

システムは専用のアプリケーションソフトをインストールしたiPad

Pro、重機の位置を補正するロケーションマ

ーカー、バケットのアー

ムに装着するバケットマーカーなどで構成する。

トと地下埋設物のCIモデルを同時に見ながら掘削する。バケットの刃先が埋設物に近づき、設定した範囲に入ると画面と音で警告する仕組み。

2社共同で特許出願中。2023年11月に国土交通省の新技术情報提供システム(NETIS)に登録された。

張現実)マシンガイダンスシステム」をソフトウエア開発のネクステラス(同)と共同開発したと発表した。バックホーのバケットが埋設物に近くと画像と警報音で公衆災害を防ぐシステム。仙台銘板(本社・仙台)を

現場では、CIモデルを読み込ませたiPadを操縦席に取り付け、各マーカーを装着・配置し、現地の基準点とiPadの基準点を一致させて作業を開始。オペレーターはiPadの画面に表示されたARのバケッ

岩田地崎建設の遠田康

英技術部担当部長は「実証実験を繰り返し、精度を高めてきた。リリース

できてうれしい。普及する

ことで現場の公衆災害

が減ればいい。今後もシ

ステムの改良を進め、さ

らに精度を高めていきたく

い」と意気込んでいる。